

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0019			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	情報工学科			対象学年	2		
開設期	通年			週時間数	3		
教科書/教材	「新高等学校 現代文B」(明治書院)「新高等学校 古典B」(明治書院) / 「新国語便覧(新版四訂)」(第一学習社)、「常用漢字ダブルクリア」(尚文出版)、「作文・表現ハンドブック」Ⅰ・Ⅱ(第一学習社)、「新精選古典文法 改訂版」(東京書籍)						
担当教員	鍵本 有理,松井 真希子						
到達目標							
1.高等学校2年生相当の漢字力や語彙力を身につけている。 2.小説について、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。また、自身の経験にひきつけて感想を述べることができる。 3.評論文について、筆者の意見を的確に把握し、正確に要約することができる。また、筆者の意見に対して、自身の意見を、根拠をもって表現することができる。 4.日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。 5.文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	話し手の指示や意見を的確に聞き取り、正確にまとめることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、適切な声の大きさ、明瞭な発音で、述べたり読んだりすることができる。			話し手の指示や意見を的確に聞き取ることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、述べたり音読したりすることができる。		話し手の指示や意見を聞くことができない。 聞き手を意識せずに、自身の意見や与えられた文章を、声の大きさや発音に気を留めずに述べたり音読したりする。もしくは活動時に発言しない。	
評価項目2	書物や文献に対して、批判的に読解し、自身の意見を抱き、正確に表現することができる。			書物や文献に対して、自身の意見を抱き、表現しようと工夫することができる。		書物や文献に対して、自身の意見を表現することができない、もしくは文章表現として著しい誤りがある。	
評価項目3	初見の文章について、内容を理解しながらスムーズに音読することができる。			初見の文章について、句としてのまとまりを意識しながら音読することができる。		初見の文章について、単語ごとに細切れに音読する。	
評価項目4	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を即座に調べ、習得することができる。 高校卒業程度の語彙力(漢検準2級～2級程度)を有しており、適切に運用することができる。			言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を自主的に調べることができる。 高校在学程度の語彙力(漢検準2級程度)を有しており、適切に運用することができる。		言葉に関心がなく、初見の語であっても自主的に調べることがない。 中学校卒業程度の語彙力(漢検3級程度)を有しており、高校在学程度の語彙を誤って運用することができる。	
評価項目5	日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。			日本の伝統的な言語文化について、興味・関心を持つことができる。		日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ったり、その価値に気づくことができない。	
評価項目6	文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。			文語のきまり、漢文訓読のきまりについて、調べることができる。		文語のきまり、漢文訓読のきまりについて、全く理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程(本科1～5年) 学習教育目標 (3)							
教育方法等							
概要	他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。						
授業の進め方・方法	高等学校第2学年に相当する国語の力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読み、多様な考えに触れる。自分が感じたり、考えたりしたことを口頭や文章によって表現する機会、クラスメイトの意見や考えに触れ、検討や議論を通して自分の考えを深める機会をもつ。 現代文は通年で週2時間、古典(古文・漢文)は前期または後期の半期集中で週2時間、授業を行う。						
注意点	関連科目 国語の運用能力は、人文や社会科学系の科目ばかりでなく、自然科学系の科目の基礎にもなる。 学習指針 授業中は発問を多くするので、積極的な発言や質問ができるよう準備しておくこと。 また、作文や創作の時間を有効に使えるように、日頃から問題意識を持って自分や自分の身の回りの世界に目を向けておくこと。毎週現代文の時間の冒頭で小テストをする。 自己学習 授業前に教科書の下読み、知らない言葉の下調べは必ず行うこと。プリント課題にも必ず取り組んでおくこと。 古典については毎時間、予習をすること。教科書の本文を写し、大事な注なども写しておく。そして、意味や訳のわからなかったところを授業で補い、ノートに記入するようにするとよい。 事前学習 現代文、古典ともに「自己学習」の箇所に記載の通り、予習を必ずしておくこと。 特に古典について、現代語訳については、授業ではポイントのみ重点的に取り上げるので、それ以外の箇所は必要に応じ自分で訳を書いてみることに。 事後発展学習 現代文については本文を繰り返し読み込み、不明な部分がないようにする。また、自分で本文の要点を整理したり要約したりするのにもよい。 古典については講義内容をノートにまとめておく(自分への参考書を作成するつもりで)。プリント課題等のある場合は、次の授業時までには解いておく。						
学修単位の履修上の注意							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	現代文 ガイダンス		現代文 シラバスの内容を理解する。		
		2週	現代文 評論(1) 見田宗介「幸福について」①		現代文 評論の基本的な読み方を習得する。		
		3週	現代文 評論(1) 見田宗介「幸福について」②		現代文 筆者の主張を的確に把握できる。		

後期		4週	現代文 小説(1) 中島敦「山月記」①	現代文 李徴と袁傖の人柄が説明できる。
		5週	現代文 小説(1) 中島敦「山月記」②	現代文 李徴の心情の変化と自己分析について説明できる。
		6週	現代文 表現活動(1) 「作文・表現ハンドブック」Ⅰ①	現代文 原稿用紙を正しく使う事ができ、書き言葉や接続詞を正しく運用できる。
		7週	現代文 表現活動(1) 「作文・表現ハンドブック」Ⅰ②	現代文 読み手を意識した文を書くことができる。
		8週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
	2ndQ	9週	前期中間試験返却・解説 現代文 評論(2) 長谷川眞理子「コンコルドの誤り」①	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文 本文中のキーワードが把握できる。
		10週	現代文 評論(2) 長谷川眞理子「コンコルドの誤り」②	現代文 筆者の主張を理解した上で、自身の意見が述べられる。
		11週	現代文 小説(2) 高橋源一郎「白紙」①	現代文 場面の展開と、登場人物の心情について、正しく読み取ることができる。
		12週	現代文 小説(2) 高橋源一郎「白紙」②	現代文 母と子の関係について考えを深めることができる。
		13週	現代文 表現活動(2) 「作文・表現ハンドブック」Ⅰ③	現代文 構想メモを活用して、自分の意見や考えをまとめることができる。
		14週	現代文 表現活動(2) 「作文・表現ハンドブック」Ⅰ④	現代文 段落分けのルールを理解し、与えられた課題について作文することができる。
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	前期末試験返却・解説	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。
	3rdQ	1週	現代文 評論(3) 高階秀爾「「間」の感覚」① 古典 ガイダンス(ノートの取り方) 説話「兄の飴食ひたること」「大江山」	現代文 全体の構成や展開を理解することができる。 古典 ノート作りの意義について理解できる。説話の面白さを理解することができる。
		2週	現代文 評論(3) 高階秀爾「「間」の感覚」② 古典 物語(1) 『竹取物語』「かぐや姫の昇天」①	現代文 筆者の主張に対して、自身の意見を述べる ことができる。 古典 古典の代表的な作品について、あらすじを理解できる。基本的な古典単語についての知識を身につける。
		3週	現代文 小説(3) 井上ひさし「ナイン」① 古典 『竹取物語』「かぐや姫の昇天」②	現代文 登場人物の関係と時間の流れを整理することができる。 古典 古典作品の内容を読みとり、訳すことができる。『竹取物語』に込められたテーマを考えることができる。
		4週	現代文 評論(3) 井上ひさし「ナイン」② 古典 古文の窓 漢文訓読(1年の復習)	現代文 正太郎に対する印象の違いを説明することができる。 古典 敬語から主語を考えることができる。漢文訓読の基本的なきまりを身につける。
		5週	現代文 評論(3) 井上ひさし「ナイン」③ 古典 故事・逸話「矛盾」「推敲」	現代文 英夫や常雄の立場を自分に置き換えて、考えを深めることができる。 古典 再読文字などのある漢文を訓読できる。故事成語について知る。
		6週	現代文 表現活動(3) 「作文・表現ハンドブック」Ⅱ① 古典 随筆(1) 『徒然草』「これも仁和寺の法師」	現代文 読み手を意識した作文を書くことができる。 古典 話の面白さと結末について理解できる。
		7週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		8週	後期中間試験返却・解説 現代文 小説(4) 夏目漱石「こころ」① 古典 随筆(1) 『徒然草』「雪のおもしろう降りたりし朝」「城陸奥守泰盛は」	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文 夏目漱石について、概略が説明できる。 古典 随筆に込められた情趣や主題について理解できる。
	4thQ	9週	現代文 小説(4) 夏目漱石「こころ」② 古典 史話・史伝『史記』「鴻門之会」①	現代文 「私」の心情の変化を軸に、場面を正確に把握できる。 古典 日本と外国文化との関連に関心を持つことができる。登場人物の関係を理解できる。
		10週	現代文 小説(4) 夏目漱石「こころ」③ 古典 史話・史伝『史記』「鴻門之会」②	現代文 「私」の心情と態度を関連づけて、その過程を正確に辿ることができる。 古典 漢文訓読の上で注意すべき語法・語句の知識を身につける。
		11週	現代文 小説(4) 夏目漱石「こころ」④ 古典 史話・史伝『史記』「鴻門之会」③	現代文 「K」が自殺した動機について、自分の意見が述べられる。 古典 漢文の内容を理解し、歴史書の面白さを味わうことができる。
		12週	現代文 小説(4) 夏目漱石「こころ」⑤ 古典 物語(2) 『源氏物語』「光源氏誕生」	現代文 『こころ』について、正確な日本語で感想文が書ける。 古典 古典常識や敬語に関する知識を身につける。登場人物の人間関係を理解できる。
		13週	現代文 小説(4) 夏目漱石「こころ」⑥ 古典 物語(2) 『源氏物語』「小柴垣のもと」①	現代文 『こころ』に対する感想について意見交換し、考えを深めることができる。 古典 『源氏物語』の「若紫」のあらすじを理解できる。
		14週	現代文 表現活動(4) 「作文・表現ハンドブック」Ⅱ② 古典 物語(2) 『源氏物語』「小柴垣のもと」②	現代文 作文全体の構成を考えて適切に段落分けをして、600字の作文を書くことができる。 古典 内容や登場人物の心情が理解できる。重要古語や敬語の知識を身につける。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。

		16週	学年末試験返却・解説		試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前1,前2,前3,前6,前8,前9,前14,後1,後2,後3,後12
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	3	前1,前2,前3,前6,前8,前9,前14,後1,後2,後3,後12
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	3	前1,前4,前5,前10,前11,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後13,後14
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前3,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後6,後7,後8,後10,後11,後13,後14
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	前1,前2,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後7,後8,後9,後10,後11,後13,後14,後15,後16
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	前1,前2,前3,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後3,後7,後8,後9,後10,後11,後13,後14,後15,後16
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	前6,前12,前13
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前8,前12,前13
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前2,前3,前8,前9,前11,前13,後1,後2,後3,後12,後13,後14
報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前2,前3,前6,前9,前11,前13,後1,後3,後12,後13,後14				
作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前14,後3,後14				

				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前4,前5,前6,前9,前11,前13,前14,後2,後3,後5,後6,後14
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前2,前3,前5,前6,前11,前14,後1,後3,後6,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前11,前13,前14,後1,後2,後3,後6,後9,後10,後11,後12,後13

評価割合

	試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合	70	20	10	100
現代文能力	49	14	7	70
古典能力	21	6	3	30